



子どもとメディア 北海道

子どもとメディア 北海道

第9号
2012年
7月発行

今年度も会員になって下さってありがとうございました！！

子どもとメディアは、年度の初めの情報誌が7月号になっています。

なので、今号が、2012年度の初めての情報誌です。(わかりづらくてすみません)

現在のところ、20名のお申し込みをいただいています。ありがとうございます。

会の活動を知っていただきたい目的で、新聞社などにも今年度から積極的に送付していくこととしました。これらの活動を支えて下さっているのがみなさんの会費です。感謝です！

『子どもとメディア認定インストラクター』として、認証されました！

2010年福岡で行われた養成講座に通い、NPO法人子どもとメディアから、「子どもとメディア公式インストラクター」として認められ活動してきました。

このたび、講演会や執筆・調査などの活動が認められ、諏訪・中谷2人とも「子どもとメディア認定インストラクター」として認証されました。

どうぞ、ご活用くださいませ。

2012年4月から7月までの活動報告

【活動報告1：調査結果を学会で発表】

で
発
表
し
ま
し
た

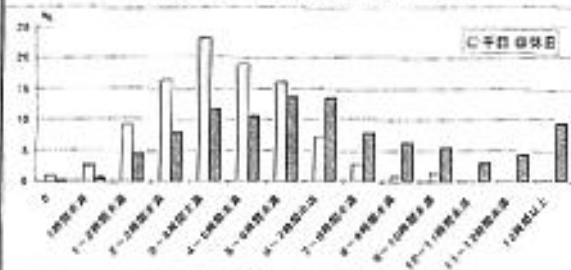
総
会
フ
ォ
ー
ラ
ム

日
本
小
児
科
医
会

6/9-10に札幌市で開催されました第23回日本小児科医会総会フォーラムで昨年実施したメディアアンケートの結果を発表しました。子どもとメディアに関する発表は他にはなく、参加者の関心も必ずしも高いとは言えない印象を受けましたが、一石を投じる機会になれば良いと思っています。(諏訪)

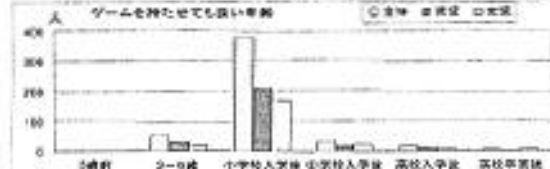
★2ページに、発表時に用いた資料の一部を掲載します★

【総メディア接触時間】



平日では10時間を越える園児はいなかったが、休日では17%の園児が10時間以上、9.6%が12時間以上メディアに接触していた。

【ゲームを持たせても良い年齢】

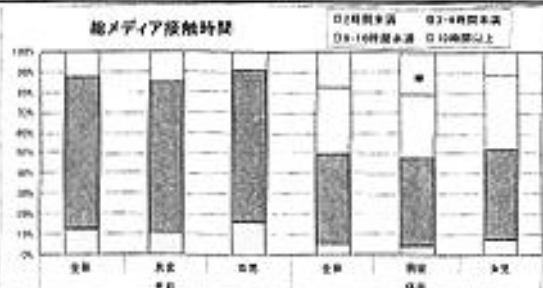


ゲームを持たせて良いと思う年齢は小学校入学後が他年齢に比して有意に高かった $p<0.001$ 。

%	全体	A市	B町	C市
全園児	9.2	0.5	0.0	0.8
0歳児	10.7	1.0	0.0	1.0
小学校入学後	72.6	74.3	71.4	72.3
中学校入学後	7.2	7.5	10.0	6.4
高校入学後	3.2	2.6	4.2	3.1
高校卒業後	1.0	1.2	2.5	0.0

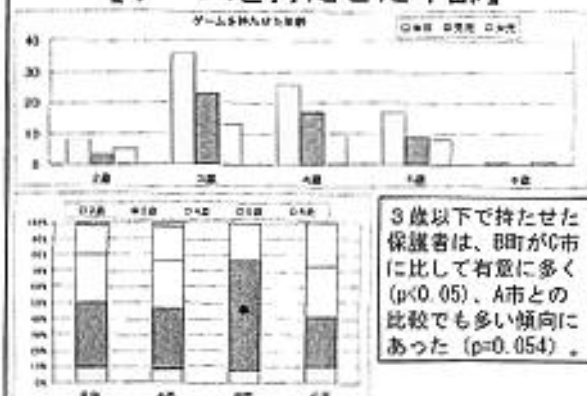
C市とB町の比較では、C市で小学校入学後と答えた保護者が多い一方B町では中学校入学後の率が有意に高かった ($p<0.05$)。

総メディア接触時間



* 全体、男女別とも休日のメディア接触時間が有意に増加していた ($p<0.001$)。
* 男児は女児に比して、休日に10時間以上接している園児が有意に多かった ($p<0.01$)。

【ゲームを持たせた年齢】



3歳以下で持たせた保護者は、B町がC市に比して有意に多く ($p<0.05$)。A市との比較でも多い傾向にあった ($p=0.054$)。

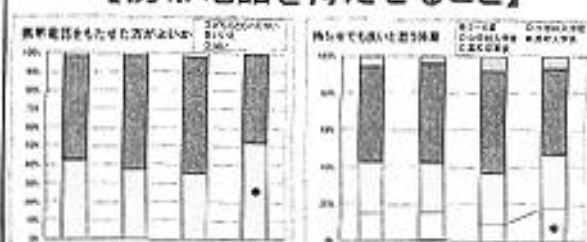
【総メディア接触時間の地域比較】



A市では他2地域に比して6時間以上接触している園児が有意に多かった ($p<0.01$)。

C市では10時間以上接触している園児がA市 ($p<0.05$)、B町 ($p<0.01$) に比して有意に多かった。

【携帯電話を持たせること】



全体では「はい」42.6%、「いいえ」56.2%、「どちらともいえない」1.2%。男女差なし。

高校入学後、ついで中学校入学後が有意に多かった ($p<0.001$)。C市ではB町に比して小学生での所持を認めた保護者が有意に多かった ($p<0.05$)。

【平日テレビ視聴時間の地域別比較】

テレビ %	全体	A市	B町	C市
2時間未満	34.9	28.2	37.8	39.2
2-6時間未満	63.3	68.4	61.3	59.7
6時間以上	1.9	3.4	0.8	1.1
教育番組 %				
2時間未満	71.5	69.1	80.0	81.6
2-4時間未満	26.8	27.0	18.3	18.4
4時間以上	1.6	3.9	1.1	0.0

A市はC市よりテレビ視聴時間が有意に長かった ($p<0.05$)。教育番組の視聴では、2時間以上視聴している園児がA市が他2地域に比して有意に多かった ($p<0.05$)。

【活動報告2：5月23日 千歳市「春のママさん教室」】

講義「乳幼児期から見通そう！子どもとメディアのよい関係 ～大人のできることに、すべきこと～」(中谷)

参加者：22人

乳幼児子育て中の
お母さん

《アンケートより》

- * 今まさに4ヶ月児をTV見ながら、ケータイしながら授乳をしていました。今日のお話を聞いて改めようと思いました。次男坊の人生を変えてくれて、講義が聞けて本当に良かったです。
- * 幼児期にゲームなどを与えるのは良くないとわかったものの、今日の講義で改めて理解できました。子どもにも納得いく説明ができそうです。家族でルールを決めたり話し合うことが大事だと実感しました。
- * 役に立ちそうだが、なかなかうまく関わってやっていくのは、実際難しそう。今回の講義内容とは別になるが、中谷さんの子育てに対するポジティブな考え方に涙した。
- * 今日帰ってから、夫とリーフレットを読み直して、考えていきたいと思った。
- * テレビ、ゲームをただ与えないという事ではなく、どういう風に与えるか、考えさせられました。
- * 印象に残った事。「車の運転で考えると」社会的判断の未熟さ。「今の時代、意識しないと誰もがメディア漬けに」
- * 子どもたちの成長に大切に最も楽しい時期を、メディアにうばわれていると思うと、その時間の過ごし方、もっと楽しみたいと思いました。

【活動報告3：6月8日 旭川「おとなの学校」】(諏訪)

NPO法人旭川サポートセンター主催の「おとなの学校」に講師として招かれました。

当日は「子どもとメディア」と題して乳児期から小中学生まで、各年代ごとの電子映像メディア接触の現状と今後の対策についてお話しをさせていただきました。

小さなお子さんと一緒に参加されたお母さんから、お孫さんがいらっしゃるおじいちゃんまで幅広い年代の方々が参加されていました。中には1月に村田先生をお招きしたスキルアップ講座に参加された札幌の方がホームページを見てこの会を知り、参加して下さっていました。

後日、感想をいただき、多くの方に興味を持っていただけたことを実感できました。

今後も、幅広い年齢層の方々に子ども達のメディア接触の現状を知ってもらい、メディアとの上手な付き合い方を模索していきたいと思えます。

《子どもとメディア北海道会員 安齋 祐子さん》

6月8日に旭川に行く用事があり、その日に先生の講演会があることを偶然にも知り、早速向かいました。

乳幼児へのメディアの影響、小中学生のネット、ケータイ、ゲームの実態、そして、対策と行った内容での講演会で、あらためて、その危険性を認識しました。豊富な調査資料に、テンポよい話し方に、2時間があっという間に過ぎました。

なによりも、私が、一番気になったことが、乳幼児の親世代が、すでに、テレビだけではなく、ネット、ケータイ、ゲームといったありとあらゆるメディアの中で育ってきている世代であり、そこに危険性を感じていないと思われる点です。

日本小児学会からも、テレビ、ビデオについて提言もなされていますが、どこまで浸透しているのでしょうか。それらを踏まえると、メディアに関しては、例えば「母親教室」とか、出産後の産婦人科での退院前の行われる指導、保健所での検診時などで、何度も何度も聞かされることが必要であると思えました。

私は、「思春期世代の子ども親の会」を仲間と運営しており、思春期の心、不登校、性、ケータイといった思春期の時期特有のことがらをテーマとした講演会などを企画しています。

・・・が、ことメディアに関しては、もっともっと若い親に伝えなくてはならないことを痛感してきました。

【活動報告 4 : 白老町での取り組み】

★1月末に行った旭川教育大学の村田育也先生をお招きしての「スキルアップ講座」に参加して下さった白老町の議員さんや保健師さんが、具体的な行動を起こして下さいました。

保健師さん(健康福祉課)の動き

・NPO子どもとメディアで発行している小冊子「2歳まではテレビを消してみませんか？」を新生児訪問の時に配布してくれることになった。
・それに先立ち、保健師さんや栄養士さんが、乳幼児へのメディアの影響について学びたいと5月9日に、中谷を呼んで学習会を開催してくれた。
・また、8月号の広報にて、「乳幼児における子どもとメディアについて考える」をテーマに、子育て中のお父さん、お母さんの座談会を掲載する。この座談会の際にも、アドバイザーとして、中谷を活用してくれた。

議員さん(子どもとメディア北海道の会員でもある山田和子さん)

の動き

・6月の議会で、「子育て支援・家庭教育について」の質問の中で、子どもにとってのメディアのリスクや影響をどのような形で町として啓蒙啓発していくのか、また、条例化などをしていく必要があると思うが、どう考えるか」を質問して下った。

今後の予定として、9月9日(日)午前中、白老町PTA連合会主催の講演会で、「子どもとメディアのよい関係～大人のできること、すべきこと～」(中谷)があります。

おそらく、ここ2年間の間に、子どもとメディア北海道の会員さんが、学校での授業や保護者向けの話に呼んでくれたり、新聞各社が取り上げて下さったりしたおかげと考えます。また、専門職の方々が「前から気になってはいたが、メディアに特化した視点での啓発は新鮮だった」という感想を寄せて下さっているのを鑑みると、それぞれの個々の家庭任せにはできない現状が子どもの心や体の状態に出てきているという事ではないかと推測しています。

白老町には、訪問型家庭教育支援事業というのがあって、それを利用すれば、主催者は無料でメディアについての講師を呼べるので、ぜひとも気軽に活用していただければと思います。

【活動報告 5 : 札幌市で行われた多様な支援機関での取り組み】

7月12日、「東京福祉大学通信教育部 札幌学習センター子ども學舎からの依頼」で、幼児文化の講義で「現代社会と子育て支援」というテーマで、2講座話しました。1講座目は、子育て支援がなぜ必要か、お助けネットの活動について。2講座目に「子どもとメディア」について。

こども學舎は、昼と夜のクラスがあり保育士・幼稚園教諭を目指す生徒さんが通われていて、シングルマザー支援を積極的に行っている学校です。今回は夜の講義だったので、多くがシングルマザーの方だったようです。「今日の講義を今後の生活にどう生かしたいですか」のアンケートに、①ノーメディアデーをつくります。②娘を抱きしめてしかります。③自分のやりたいことの一步を踏み出します。・・・とありました。

7月21日、北海道臨床心理士会のスクールカウンセラー協議会の研修会で、講演しました。

全道で活躍されているスクールカウンセラーの方々なので、講演後のグループワークでは、「実際に、不登校が長引き引きこもりになっている子どもの多くが、メディア依存になっている。どうしたらいいのか、日々格闘している」というような現状が出されました。私の話は、予防するための内容が多いので、お役に立てたかは？です。ただ、「もうすでに、引きこもりの状態になっていて、唯一ネットの中の間人間関係しかないような場合、絶対に勝手にネットを解約したり、パソコンを取り上げてはいけません。むしろネットのことを話題にしながら信頼関係を作っていく必要がある。」という事は、お伝えできました。

★札幌市の子育て支援情報誌「子育てさっぽろ」で、今年度、子どもとメディアについて、3回書かせていただくことになりました。1回目は、6月末に発行。『赤ちゃんのくらしと電子メディア』です。

「～してはいけません！」という内容の文章を、毎日汗まみれになって乳幼児を育てているママ達に読んでもらうのは、本当に心苦しいものです。私がこれまでにやってきたことと、ベクトルとしては反対の方を向いているかもしれません。でも、訪問型支援をしていて、ママ達に「えー！！テレビやDVDを早くから見せた方が頭が良くなると思ってましたぁ」と言われる事も結構あり、【伝える必要性】を感じるのです。次回は10月です。

【活動報告6： 別海町での取り組み】

- ★6月29日と30日、根室管内別海町にお邪魔しました。別海町教育委員会主催で、29日は、別海中央小学校の参観日に、3年生から6年生までの児童を対象に授業、30日は、一般町民向けの講演会でした。
- ★別海町では数年前から、子どもの健康や体力の面から、『早寝・早起き・朝ごはん、テレビを止めて外遊び』運動に取り組まれていたそうです。昨年、指導者対象の研修会に呼んでいただいた時に、役場に、これらの標語の垂れ幕や旗が立っていて、驚きました。3年前、インストラクターの勉強をしに福岡に行った時、西日本では、そのような啓発活動がされているのを知り「北海道にはない!」と思っていたからです。
- ★昨年、私の話を聞いて下さった学校の先生や教育委員会の方が、より踏み込んだ目標として【メディアコントロールの力を子ども自身につけさせたい】とし、今年度は、小学校での授業と町民向け講演会を企画されたのです。
- ★今回、私が大変感動し、今後の取り組みに示唆を与えてくれたと感じたのが、小学校での授業でした。季節外れの真夏日となった29日、蒸しかえるような暑さの体育館。3年生から6年生という幅の広い年齢層。正直、時間内にどれだけ子どもさんに伝えられるか不安がありました。ところが、驚くほどの集中力で聴いてくれ、主催者の「質問がある人?」の問いに多くの手があがりました。
- ★体育館から戻っていく時には、どの学年の子も、目を見ておじぎをしたり、「ありがとうございました」の言葉。私の方に寄ってきてくれた子どもも多く「話した内容で、そうは思わないなあというところもあったかな?」と聞くと、「そんなことはありません。知らない事もあっていいお話でした」と言ってくれた。また、「あのう、今、毎日、ともだちコレクションを1時間くらいしているのですが、脳に悪いですか?」など質問がいくつも。「気づいてくれてありがとう! 10分でも20分でも少しずつ減らして、目標に近づけてね」と答えました。
- ★さらに学校から帰ろうとした時、ちょうどスクールバスに乗り込んだ男の子が、わざわざ降りてきて「家に帰ったら、絵を描いていることが多いんだけど、それって悪いことですか?」と質問。「悪くなんてありません、いいことだよ。お外で遊んだり、自分の好きな絵を描いたり思いっきり遊んでね」と答えたらニコッと笑ってバスに乗り込みました。
- ★これまでは、ほとんどが中学生に話した事が多かったのですが、今回あらためて、小学生の発達段階が「大人の言いつけは守って、かしこくてやさしい人になりたい」と思える時期なんだと確認できました。学童期の心の発達課題は『勤勉性』だと何かで読んだ事を思い出しました。学童期のこの「勤勉に生きたい」という心の特性を生かさない手はないと思います。もちろん、その後の思春期・青年期には、それを疑問に思い壊していきたい時期に入らざるを得ませんが、「良く生きる」という土台がなければ、それもできていきませんよね。小学生の時期は、子ども自身にメディアコントロールの力をつけてもらう最適の時期と、彼らに教えてもらいました。
- ★後日談として。

この日は参観日だったので、保護者の方も聞いてくれたのですが、授業の後に「ゲームを長時間やったらよくないというのはわかったけれど、うちの子どもはたぶん無理だわ・・・」とおっしゃっていた方が、後日、「家に帰ったら、子どもの方から、ゲームを長くやったら悪いから、何分にするか決めよう!」と言ってきてびっくりした!と、話してくれたそうです。
- ★たとえば、一家庭でもそういう会話が合ったのが嬉しいですし、大人の鈍感な(失礼!)決めつけで、「どうせ、子どもなんて」の考えを改めたいですね。もちろん、子どもが生活の中で、ルールをいつも守れるわけではなく、守れるように環境を整えてあげたり、励ましてあげたり、注意してあげたりすることが、大人の役割になるのだと思います。

【子どもさんのアンケートから一部抜粋】

Q. きょうのお話を聞いて、お家の人に話したいことは何ですか？	Q. テレビやゲームのスイッチをオフにして、やりたいことは何ですか？	
・外で元気にあそぶことが大事	外あそび	ガンプラづくり
・ゲームをやるならルールを作る	しょうぎ	カードゲーム
・ゲームを長時間やると脳によくないこと	ピアノ	雪あそび
・ゲーム機をあずかってほしい	サッカー	牛舎の手伝い
・テレビを見ていない時は、消してほしい	バスケット	しばふでゴロゴロ
・いつもゲームをやりすぎて、ごめんなさい	家の手伝い	かんけり
・1週間で3時間になるようにがんばるよ	トランプ	けんけんぱ
・ネットゲームはあまりやらない方がいいこと	おにごっこ	マンガ
・「やめられない病」にならないように協力お願いします	読書	手芸
・朝は、みんなで、テレビをやめよう	勉強	工作
・どうして、いつもあそんでくれないの？	かくれんぼ	弟や姉とおどる
・スイッチオフは、わたしのしごと	おしゃべり	ローラースケート
・ゲームをしない日をつくる	サイクリング	虫とり
・テレビを見る時間や番組を決める	絵をかく	家族とバレーボール
・やくそくをやぶったら、注意して	プール	一輪車
・家のこと、てつだうね	ふえ	なんもない
・パソコン、あまり使わないでね	馬・犬と走る	野球
・テレビを見ない時は、スイッチオフ。エコにもなる	物語	ひるね

【今後の活動予定】

「子どもとメディアのよい関係」についての講演会の予定

日時	会場	主催等
9月9日(日) 9時50分～11時	白老町コミュニティーセンター	白老町PTA連合会
9月24日(月) 10時～	札幌市幌南小学校	札幌市幌南小学校家庭教育学級
10月6日(土) 18時30分～21時	芽室町中央公民館	育児ネットめむろ (パパ中心の取り組み)
10月23日(火) 19時～21時	中標津町総合文化会館	中標津町全町内会連合会 女性部
12月13日(木) 14時～15時30分		札幌市保育士・子育て支援関係者

★10月6日の芽室町での企画ですが、今回初めて、インストラクターの諏訪と中谷が、2人とも一緒に呼んでいただきました。詳細については、主催者の方とこれから詰めさせていただきますが、諏訪先生は、昨年から取り組んでいる「アンケート調査」についても話される予定です。

実は、中谷は、諏訪先生と直にお会いしたのが、インストラクター養成講座を入れても、4回ほどしかないの、直接話ができる貴重なチャンスとありがたく思っています。

★本当なら、子どもとメディア北海道の会員さんが、直接集まれるような機会をこちらで企画して、2人のインストラクターと一緒に学んだり交流したりしたいのですが、力不足で申し訳ありません。

上記の講演会は、いずれも、主催者の方にお問い合わせいただければ参加可能だと思うので、近くで開催の企画に参加したい時は、事務局の中谷までご一報くださいね。

子どもとメディア北海道会員大募集！！

今号は、それぞれの地域での取り組みが掲載されていますので、先進事例として、行政の方等にお見せするのも良いかもしれません。少しずつじわじわと、メディアコントロールの具体的な実践が広がって欲しいですね

会員になると

会議などはありません。ゆるやかなネットワークです。

★情報誌が届きます（年間4回程度発行予定）。

12年度の発行は、7月・10月・13年1月・4月の予定です。

★学習会や交流会にご参加いただけます。

申込方法

初年度の方は、入会申し込み用紙にご記入ください。（入会申し込み用紙は、事務局に連絡いただくと電子情報やFAXでお届けします）

☆入会申し込み用紙に必要事項を記入して、FAXで事務局まで送信ください。

代表・事務局へのメールでも受け付けます。（申込用紙の必要事項をメールに書いて返信ください）また、会費を郵便小為替で郵送される方は、封書で一緒にご送付ください。

☆入会申し込み用紙の送信と以下の会費の納入の確認をもって、情報誌の発送をさせていただきます。その年度にすでに発行されている情報誌は全て送ります。

会費について

情報誌作成発行・事務費等に当てます

★年会費 1500円

★会費の納入方法は、代表・事務局への手渡ししか、事務局まで郵便小為替（1500円分）を郵送するかのいずれかをお願いいたします。

事務局(中谷 通恵 なかや みちえ)

〒059-0908 白老郡白老町緑丘1丁目3-34

TEL/FAX 0144-82-2685

メールアドレス michie-n@plum.plala.or.jp

子どもとメディア北海道 ホームページアドレス

<http://childmediahk.web.fc2.com/>